

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	浄沼 和浩
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学 教授） 伊藤 大輔 副主査：（兵庫教育大学 教授） 市井 雅哉 委員：（兵庫教育大学 教授） 海野 千畝子 委員：（上越教育大学 教授） 宮下 敏恵 委員：（鳴門教育大学 教授） 葛西 真記子
3. 論文題目	月経前症状に伴う生活支障の改善を目指した認知行動理論に基づく研究
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 浄沼和浩 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和8年2月12日（木） 10時30分～11時30分 場 所：オンライン</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>(1) 構成</p> <p>第1章 月経前症候群・月経前不快気分障害に関連する問題の研究動向と課題          第2章 月経前症状による生活支障を測定する尺度の開発          第3章 月経前症状による生活支障に影響を与える心理的要因の検討          一月経前症状に対する認知的評価に焦点を当てて          第4章 月経前症状に対する認知的評価が月経前症状による生活支障に与える影響を緩和する心理的要因          第5章 総合考察</p> <p>(2) 概要</p> <p>本研究の目的は、月経前症状による生活支障度を明らかにした上で、その生活支障度を改善するための認知的アプローチの有用性について検討することであった。</p> <p>第1章では、これまでのPMSやPMDDに関する研究を概観し、研究動向を明確にした。</p> <p>第2章では、月経前症状による生活支障を測定する尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検討した。</p> <p>第3章では、月経前症状に対する認知的評価を測定する尺度を開発し、その信頼性と妥当性の検証をした。さらに、本邦における、PMSやPMDDに対する薬物療法と併用して多く用いられている生活習慣が、月経前症状による生活支障に与える影響を、月経前症状に対する認知的評価が月経前症状による生活支障に与える影響と比較・検討した。その結果、月経前症状に対する認知的評価は、生活習慣よりも月経前症状による生活支障に強く影響を与えることを明らかにした。</p> <p>第4章では、月経前症状に対する認知的評価の月経前症状による生活支障に与える影響を、認知的統制が緩和することを明らかにした。</p> <p>第5章では、第1章から第4章まで得られた結果をまとめ、総合考察を行った。最終的に、月経前症状による生活支障を強く感じている者に対する非薬物療法として、月経前症状に対する認知的評価をターゲットとした認知的アプローチが有用である可能性が示された。</p>

## 2. 審査経過

### (1) 審査概要

浄沼氏の論文概要についての口頭発表が行われ、各審査委員から論文内容についての質疑、それらへの浄沼氏の応答を経て、審査委員会による審査が行われた。

### (2) 学位論文の独創性と発展性について

本論文は、PMDやPMDDによる生活支障度という新たなアウトカムを想定し、それらを改善するための心理療法の可能性を示唆した先駆けとしての研究として位置付けられる。まず、PMDやPMDDによる生活支障度を測定可能なツールが整備されたことで、効果的な支援を提供するために必要な実証的な研究知見の蓄積が可能となり、今後の研究領域の発展に寄与する。さらに、そのPMDやPMDDによる生活支障度に対して、認知的評価に着目した支援を行うことが有効である可能性についてデータに基づいて実証的に明らかにした点が独創的である。

### (3) 学校教育の実践への貢献あるいは社会的貢献

本論文における月経前症状の生活支障度やそれらに対する認知的アプローチの有用性を示唆した知見は、医療領域におけるアセスメントや支援に関する臨床応用のみならず、学校現場における性教育・予防教育などへの知見として活かすことができる。

## 3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 浄沼和浩 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。